

飯山市土砂災害現場を確認しました

～流木対策の必要性について～

5月19日に飯山市照岡の井出川流域で大規模な山腹崩壊が発生し、長野県の要請を受け、資機材支援を行った鋼製砂防牛柵水制2基の設置後の状況等を含め、松本砂防事務所の職員他は、災害現場の調査を行いました。

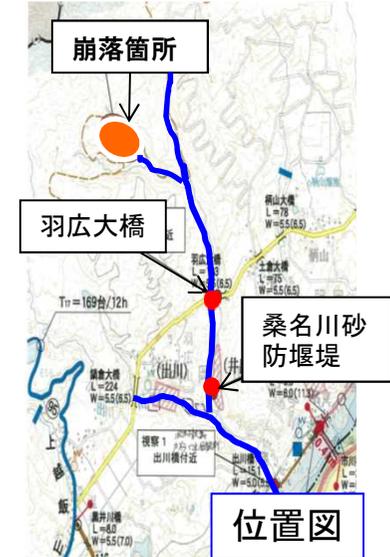
崩落地下流にある桑名川砂防堰堤は現在も土砂や流木を捕捉しています。捕捉した流木などが下流に流出した場合に集落が被害を受けることを防ぐため、松本砂防事務所では、長野県からの要請を受け、鋼製砂防牛柵水制2基を支援し、6月17日に長野県により設置されました。

下流の集落の流木被害を防ぐため設置した鋼製砂防牛柵水制などが判断材料となり、6月23日に避難指示が避難勧告に緩和されました。鋼製砂防牛柵水制は、桑名川砂防堰堤から流出した流木を捕捉し効果を発揮しています。

今回の飯山市土砂災害、九州豪雨災害を踏まえ、流木対策の必要性が高まっています。

国土交通省北陸地方整備局
松本砂防事務所

平成29年7月21日



桑名川砂防堰堤(左:上流地点 右:下流地点から上流を望む)



鋼製砂防牛柵水制(ブルメタル)



九州北部豪雨における流木被害

6月30日からの梅雨前線及び台風3号による大雨により、大規模な土砂災害が発生しました。

斜面崩壊により、土砂に加え大量の流木が発生し、被害が拡大しました。一方で既設砂防堰堤が土砂・流木を捕捉し、下流の人家への被害を軽減させました。



須川第1砂防堰堤(福岡県朝倉市)



須川第1砂防堰堤の堆砂域に堆積した流木